

ツシマウラボシシジミ ～継続して取り組みを進めています～

飼育繁殖の取り組み



日本では長崎県対馬にのみ生息するツシマウラボシシジミが、現在日本でもっとも絶滅の危機にあるその現状と、保全への緊急の取り組みについては、ニュースレターの17号で詳細にご報告しました。その後、多くの方々のご協力をいただきながら、保全活動は継続して実施されています。

飼育繁殖では、足立区生物園による取り組みが進められており、本年5月には1回目の成虫が発生しました。様々な工夫をしながら実施することで、交配もほぼ成功し、産卵も順調に進み、現在、数百個体の幼虫が育っています。飼育繁殖については試行錯誤の連続で、技術開発は今度も継続していきますが、ようやく一定の目途は立ってきたかというところではあります。

一方、対馬では、飼育繁殖個体の再導入による野外への再定着の試みを実施しながら、生息状況のモニタリングも合わせて行っていますが、一時的には野外に定着させることができているようです。ただし、季節によって生息場所が移動するため、まだ安定した生息状況を復元できている状況ではありません。

今後は、飼育繁殖を継続するとともに、年間を通じて安定して生息できる環境を復元することに、重点的に取り組んでいく予定です。特に、野外の生息地では防鹿柵を設置してシカによる植生への被害を防ぎ、光環境なども改良していくことが必要で、時間・労力ともに非常に大がかりな作

業となることから、現在はこれが保全上の大きな課題となっています。

ご寄付をいただきましてありがとうございました！

前号にて、ツシマウラボシシジミの保全のためのご寄付のお願いをいたしました。以下の方々より、ご寄付をいただきました。誠にありがとうございました。

青山 巖、新井隆介、井上A.尚、井上晴子、宇野 彰、金子尚史、国沢則子、笹井俊雄、高崎 明、田中和夫、田中和良、田中藤太郎、中山 知、新妻凜生、長谷川よしみ、氷室 俣、古谷隆一、古谷千恵子、松山博行、峰 正隆、宮平絹枝

前述のように、今後は野外でのツシマウラボシシジミの保全区域を設定し、そこから重点的に防鹿柵の設置や森林環境の改善など、多くの事業を進めていく予定です。お寄せいただきましたご寄付はこの費用に充てさせていただきます。

ツシマウラボシシジミの保全には、現在、多くの方々のご参加・ご協力をいただいておりますことに、改めて厚く御礼を申し上げますとともに、引き続き、多くの皆様からのご協力やご寄付を、何卒よろしく願いいたします。